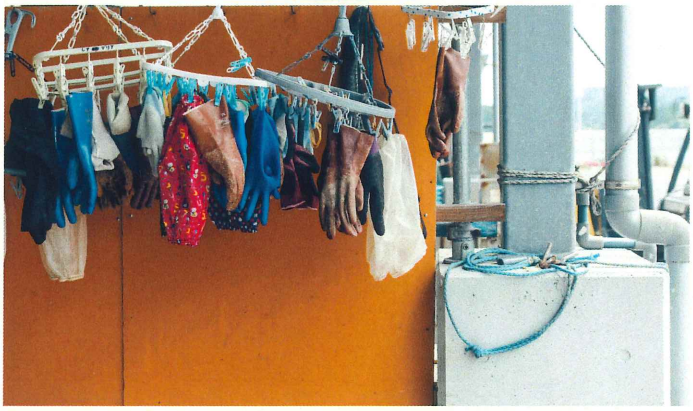
陸前高田で漁師になることを選んだわたしたちの話

陸前高田市漁業就業者育成協議会



「陸前高田で漁師になる」とは

二〇一一年三月十一日。

東北地方を中心に大地震、大津波が襲いました。

『未曾有の大震災』と呼ばれたこの震災は、各地の産業や暮らしに大きな影響を与え、日本全国、そして世界中に衝撃をもたらしました。

そんな東日本大震災から、十年。復興は目に見える部分だけでなく、人と人とが出会い、笑顔が溢れる瞬間もありました。多くの方々の応援によって、東北は前へ進んでいます。

しかし、東日本大震災の影響や高齢化、人口の減少に伴って、伝統的な技と誇りを受け継ぐ海の担い手は不足してきています。長い間紡がれてきた産業の存続が危ぶまれているのです。

私たちが生きる現代は、変化が激しく先の読めない、改めて一人ひとりの生き方が問われている時代です。陸前高田の漁師たちも『どう働くか』だけではなく、『どう生きるか』を問いながら海と向き合い続けています。

これからの漁業を担う陸前高田の若者就業者たちが、なぜ漁師という『生き様』を選んだのか。

本紙を通じて、知っていただけたら幸いです。

岩手県陸前高田市と広田湾

陸前高田の海について

陸前高田市広田湾は、世界三大漁場のひとつ「三陸沖」の中に位置し、入り組んだ海岸線から流れ込む豊富な栄養源を受けながら多様な漁業が営まれてきました。

東北の中でも比較的温暖な気候や冬の降雪量の少なさから「岩手の湘南」と呼ばれることもある陸前高田。季節ごとに漁獲される魚種は移り変わります。名産品のワカメひとつをとっても、外洋に面した荒々しい海と、内湾の穏やかな海で育ったものは個性が異なります。各浜、その地に適した種の養殖や漁が行われています。

広田湾の海産物

ワカメや昆布などの海藻類や、広田湾産イシカゲ貝やホタテといった貝類は、陸前高田の誇る名産品。特に、二～三年かけて育てられる牡蠣は、豊洲市場の競りで最高値がつくこともあるほどの品質として賞されています。他にも、定置網漁やカゴ漁等によるサケやタコ、アワビやウニ、ホヤやヒジキなど、多彩な魚種の漁獲が行われています。

広田湾のシーズンカレンダー

わかめ

冬に種を蒔き、春には人の背丈ほどに成長するワカメ。収穫期の三～四月は繁忙期であり稼ぎ時。その慌ただしさを「ワカメ戦争」と呼ぶ人もいるほど。一月中旬頃、間引きの際に出る「早採りワカメ」は、柔らかく食べやすい冬のご馳走です。

うに

広田湾漁協組合員とその家族のみ獲ることができる「開口」の日。早朝、かっこ船に乗った漁師たちは限られた時間の中でウニとり用のカギを片手に競い合うように海底を覗き込みます。持ち帰ったウニは家族総出で剥いて、昼には出荷。スピード勝負です。

牡蠣

気仙川を通じて流れ着く山の栄養によって育まれるぷっくりとした良質な牡蠣。冬を越え、豊富な栄養源を受けた春先の牡蠣こそ実は漁師の好む旬の味。出荷の繁忙期は冬～春。種付けから出荷まで二～三年かかるため、年間を通して作業があります。

新人漁師インタビュー

新しい場所で、新しい自分との出会い

大野 広貴（おおの こうき）（26） 写真右
大阪府大阪市出身。飲食関係の仕事に従事していたが、新型コロナウイルス感染拡大を背景に離職、2020年9月、漁師を目指し陸前高田市へ移住。小友町で牡蠣やワカメ養殖を行う漁師の元で修行中。

布部 司（ぬのべ つかさ）（26） 写真左
大阪府松原市出身。不動産会社勤務を経て、2020年9月に大野さんと共に陸前高田市へ移住。現在は市内の市営住宅に暮らしながら、独立を目指し勉強中。

――漁師を始めたきっかけは

大野 僕のじいちゃんが漁師で、もともと興味があったんですよね。シンプルにかっこいいなというイメージがあって。

布部 同じです。僕は身内に漁師がいるわけではないですが、テレビなどで見て、かっこいいイメージがあった。

大野 コロナの影響で仕事を辞めることになって、どうせ新しいことするなら誰もやってないこと、興味があることやろうと。「漁師やらへん？」と布部を誘って、漁師になれる場所を探すことにしました。

――陸前高田に来る経緯は

大野 最初は九州の方に行こうと考えていたんですよ。暖かいところが良くて（笑）でも、遠い場所も選択肢にはあったので、電話をしてみたら陸前高田市役所の担当者が一番レスポンス早く返してくれた。良くしてもらって、じゃあ陸前高田に行こうと。

――初めて来たときの印象は

布部 移住する前に一度下見に来て、家を見たり、お世話になる会社へ挨拶に行きました。盛岡とか仙台には行ったことがあったけれど、陸前高田は初めてでしたね。町の印象は、想像していたよりも何もなかった（笑）

大野 むしろそれまでなんでもありすぎたんやろな、身近に。

――実際に暮らしてみて

大野 最初はどこに何があるかすら分からずしんどかったり、買い物行くにも遠くてどうしたらいいのかなって思っていました。でも、行けない距離じゃないし、今は慣れましたね。

――仕事の大変さ、楽しさは

布部 もともと持っていた漁師のイメージと、養殖漁業は結構違うかもしれません。屋内の作業もあるからずっと外にいるわけではないし、思っていたほどのハードさではなかった。

大野 そうですね。僕、年末年始の連休明け一発目の仕事って、昔は結構嫌だったんですよ。今回もそうなるかなと思ったんですけど、いざ働いたら全然苦じゃなくて。逆に楽しかったくらい。「あー、やっぱりいいわ」と思いましたね。やっていることは毎日あまり変わりないけれど、海の上で景色が違うということはあると思います。

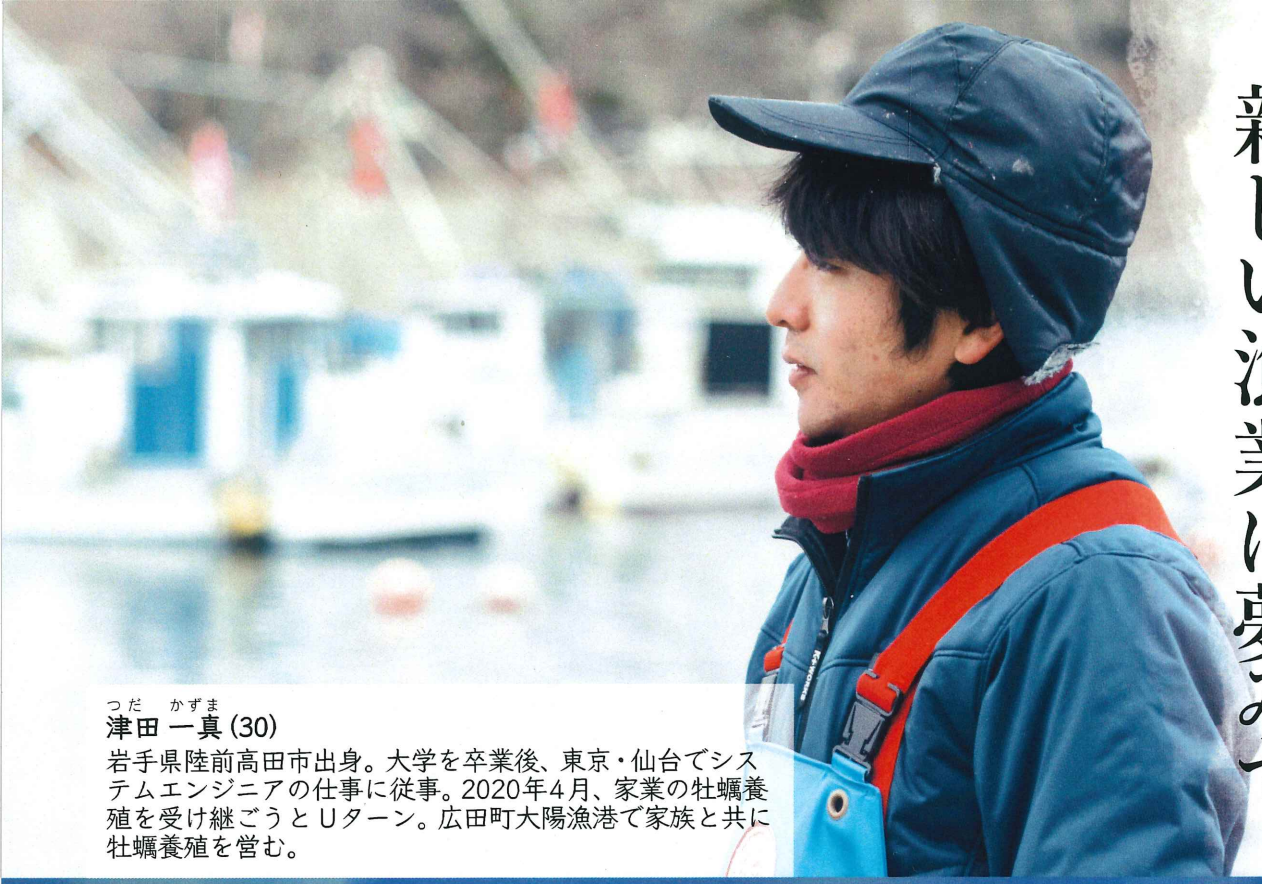
――これからの目標は

大野 いろいろなことをやってみたいですね。せっかく漁師という職に就いたから、海関連の仕事は牡蠣に限らずなんでもやってみたい。それで色々と発信して、人が集まったらなおいいんじゃないかなって。盛り上がると思いますし。

――漁師に興味がある若者たちに向けてメッセージを

大野 できないことができた時って、結構嬉しいじゃないですか。多分僕らと同じような感情を持つ人はいると思うのですが、漁師は難しそうなイメージを持たれがち。やったら楽しいと思うんですよね。ぜひ行動してみてほしいです。

布部 移住して漁業をやるって、最初は結構勇気がいると思うんですよ。でも、いざ来てみたらなんとかなる。やりたいことがあるんだったら、やった方がいいです。これを見て漁師やる人が増えたら、嬉しいですね。



新人漁師インタビュー

地元の誇りと、新しい漁業に夢みて

津田（つだ） 一真（かずま）(30)

岩手県陸前高田市出身。大学を卒業後、東京・仙台でシステムエンジニアの仕事に従事。2020年4月、家業の牡蠣養殖を受け継ごうとUターン。広田町大陽漁港で家族と共に牡蠣養殖を営む。

――漁師を始めたきっかけは

家業として、代々漁業をしていました。道具があるし、小さい頃から遊び感覚で手伝っていたから仕事のイメージはなんとなく持っていて。今、養殖業を営んでいる父が今後老いていくことを考えると、自分も覚えておいたほうが良いかもしれないと思い始めました。ちょうど三十歳になるタイミングで、前職も七～八年勤めてある程度要領を覚えていたから、何か新しいことをやろうかなという気持ちもありましたね。受け継げるものは受け継ごうと地元に戻り、牡蠣養殖を始めました。

――始めてから感じる大変さは

昔から作業を見ていたから、「こんなに辛いとは思わなかった」というようなハードルは感じません。ただ、体力的な大変さはあると思います。体が痛いとか、肩があがらなくなったとか。結構指を使うので腱鞘炎のような感じになったり、塩水を使うので手は荒れます。それは体を使う仕事なので仕方ないこと。でも、高齢者がやる仕事ではないなとは感じています。将来的にもっと機械化されたり、自動でできるような作業が増えて、女性や高齢者でも体を痛めず楽に作業ができるような仕事になっていったらと思っています。

――一日のスケジュールは

繁忙期は早朝五時頃から牡蠣剥きや重量計測などの作業を始めます。日が出てきたら沖で牡蠣の水揚げをして、牡蠣の出荷がある日は出荷。朝ご飯をとって、午前中は再び牡蠣剥きや次の集荷の重量計量をします。昼休憩の後、午後の作業は三時頃まで。夕方以降の時間は自由に使いますね。朝が早いので、午後十時半には就寝します。

――漁師としてのやりがいは

今は、すっかり当たり前の作業になっているんです。ご飯を食べるとか、歯磨きする、そういう感覚でやっているから。

以前、東京にいた頃に友人とオイスターバーに行ったことがあって。そこで広田湾産牡蠣を見つけたときは、ちょっと嬉しかったです。やっぱり買ってくれたり消費してくれたりする人のことを見たら、嬉しいなって思いますね。自分の作ったものを「よかったよ」って言われるのっていいじゃないですか、その感覚ですかね。

――これからどんな風に働いていきたいですか

前職でパソコンを使う仕事をしていたので、技術を生かして何かできないかと考えています。漁業は続けます。ただ、漁業だけに限らず色々なことをやりたいです。ユーチューブを使って発信してもいいだろうし。何が盛り上がるか、当たるかわからないですから。最近は副業可の会社が増えていますけど、同じように、時間があったら何か他のことに使えるような働き方がいいかなと思います。

――漁業に関心がある若者たちに向けてメッセージを

単純にすごいと思います。個人的には、そういう人が増えてくれるのは嬉しい。新しく漁師を始める人も、それまでの経験や技術を生かして盛り上げてもらえたらいいと思います。

一緒に頑張りましょう、アイディア次第で面白くできる産業だと思います。

新人漁師インタビュー

人の優しさに触れ、恩返しの想いを胸に

三浦 尚子（みうら ひさこ）(30)

神奈川県相模原市出身。大学在学中、所属ゼミの傾聴ボランティアで陸前高田を訪れる。卒業時、ゼミで知り合った養殖魚家のもとでワカメの漁業アルバイトを経験し、2014年陸前高田市に移住。牡蠣やワカメの養殖事業を営む漁師の元で修行。2020年10月から独立しワカメ生産者として養殖を開始。

――漁業に関わるきっかけは

大学を卒業した春、所属していたゼミの教授の紹介で、一ヶ月間ワカメ養殖を手伝うアルバイトをしに訪れたのがきっかけでした。

事前の情報もないまま飛び込んだので「船乗るのか、そうだよなあ」「すごい塩水かぶるわあ」ってすべてが初めての体験。最初はワカメの刈り取り方を教えてもらい、見よう見まねでやっていました。作業中はみんな集中しているからピリピリした空気もあって、なんか怖いなあと思いながら初日の朝を過ごしましたね。

体力的にはきつかったけれど、海の上から朝日が見えることに感動したり、地元の人といろいろな話をしながら作業をするのは新鮮で、楽しかったです。一ヶ月が終わる時、お世話になっていた人たちと離れるのは寂しかったし、自分の中に「もう少しやりたい、もっと知りたい」という気持ちが強くありました。なので、帰って一週間後くらいにまた陸前高田へ戻ってきて、そのまま今も働いています。

――続けられている理由は

単純に好きだからというのもあるけれど、一緒に働いている人、環境が良かったんだと思います。荒々しい感じではなく、穏やかで視野の広い人たち。私には合っていたのかなと思います。

アルバイト期間中は、自宅のお風呂に入れていただいたりご飯をご馳走になったり、とにかくお世話になりました。移住してからも、車の免許を取るまで送迎してもらったりして。お世話になった分、何かを返したいという気持ちがずっとあります。

私が精一杯仕事を頑張って、みんなが休みたい時に仕事を休めたり、牡蠣が売れたら良いのかなって。二年目の終わり頃には「自分なりにできることを増やそう」と思って、牡蠣を発信するためにSNSの使い方を勉強したり、写真を撮ったりしていました。

――独立をする経緯は

ここ二年くらいで、全く知らない人、第三者から応援してもらえることが多くなってきたんです。私が携わっているからという理由で牡蠣を買ってくれる人もいて、周りの人からの応援で少しづつ自分に自信がついていきました。

以前から持っていた「いつか自分の名前で漁業をやりたい」という気持ちが「もしかしたらやれるかもしれない」、「あ、できるな」と段階を経ていきました。

二〇一九年の秋頃、漁場に空きがあったことや、ちょうど養殖を辞めた人から機材を譲り受けられることなど、偶然が重なり条件が揃ったことで、ワカメ養殖を始めることになりました。

――今後の計画は

二〇二三年頃までには自分自身で養殖をできるようになるための技術や体制を整えたいと考えています。独立自体よりも「どう働きたいか」「誰と働きたいか」に重きを置くことを大事にしたいので、職場であるマルテン水産は辞めずに、並行して続けていきたいと思っています。

――これからの目標は

一般的にイメージされるような漁師の固定概念を変えて、海や漁業に関わりたい人のハードルを下げていけたらと思っています。「漁師＝3K」といったネガティブなイメージではなく、かっこいい部分があること、「当たり前にあるけど気付いていなかった物事」を伝えていきたいです。

漁業に初めて携わる方へ

陸前高田の漁業は様々な制度で未経験から漁業の世界へ飛び込む方々のサポートをしています。

初めてでも挑戦できるアカデミー

いわて水産アカデミー

いわて水産アカデミーは、岩手県での漁業就業希望者を地域内外から集め、漁業就業者として地域に根付いてもらい、岩手の漁業をリードする担い手として育成することを目的とした研修制度です。
一定の要件を満たす場合は、研修期間中で最大150万円の就業準備資金が受けられます。また、漁業就業に必要な知識・技術や実践的な技術の習得のほか、小型船舶操縦士等の免許の取得ができます。
漁師になるための最初のステップとしてアカデミーで学びながら、仲間や先輩と繋がることができます。
過去には網縫い、定置網漁業実習、水産加工実習、漁船機械講習などの講習が行われました。

詳しくはこちらのHPをご覧ください。
https://www.pref.iwate.jp/sangyoukoyou/suisan/ninaite/1008512.html

「金銭面」のサポート

陸前高田市がんばる海の担い手支援事業

陸前高田市と広田湾漁業協同組合では、新規漁業就業をサポートすべく様々な補助を行っています。

詳しくはこちらのHPをご覧ください。
https://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/kategorie/sangyou/suisan/gambaru-umino-ninaite/gambaru-umino-ninaite.html

2024年4月現在（詳しくはHPをご覧ください）

資機材整備支援	(1) 補助率：1/2 (2) 上限：120万円（1年目） (3) 上限：72万円（2年目） (4) 上限：48万円（3年目）
生活支援	上限：150万円/年（2年間）

「移住生活」に関するサポート

NPO法人高田暮舎

陸前高田市への移住に関する情報発信、空き家バンク、移住者サポート及びコミュニティ形成の事業をしている団体です。
I・Uターンスタッフの移住経験を活かして、暮らし情報の提供や空き家バンクと連携した物件の案内等を行っています。

住む場所や暮らしに関する相談はぜひ高田暮舎へ。

詳しくはこちらのHPをご覧ください。
https://takatakurashi.jp/

同じ岩手の新人漁師同士の横の繋がりができたり、知り合いが誰もいない土地でお家や空き家を借りるのも大変なのでこうしたサポートがあると助かると思います。

いわて水産アカデミー第1期卒業生
佐々木（ささき） 快昌（よしまさ）

陸前高田市漁業就業者育成協議会
〒029-2292
陸前高田市高田町字下和野100番地
0192-54-2111